

越境デジタル環境における相互行為規範の再編

中国発 SNS 小紅書における日本人ユーザーの「空気を読む」実践

金丸昌美*, 潘佼佼**

*北京語言大学国際政治コミュニケーション学院 **北京語言大学国際政治コミュニケーション学院

*jinwanchangmei.812@gmail.com **panjiaojiao@blcu.edu.cn

本研究は中国発 SNS 小紅書に参加する日本人ユーザーを対象に、「空気を読む」文化的実践の異文化的再編過程を検討した。テキスト分析と半構造化インタビューにより、小紅書には承認の可視性・情動的互酬性・参与の連鎖性・共同行為感から成る独自の相互行為秩序が形成されていることを明らかにした。日本人ユーザーは防御的適応、観察的模倣、選択的再構成を経て適応し、空気読みは異文化環境で再交渉される相互行為資源へと変容していた。本研究は文化実践の越境的動態性を示す。

Reconfiguring Interactional Norms in Cross-Border Digital Environments Japanese Users' "Reading the Air" Practices on the Chinese Social Media Platform Xiaohongshu

Masami KANEMARU*, Jiaojiao PAN**

*School of International Politics and Communication, Beijing Language and Culture University

**School of International Politics and Communication, Beijing Language and Culture University

1. 研究背景と問題意識

近年、SNS の国際的普及により自国とは異なる文化圏のプラットフォームを利用する越境型 SNS 参加が拡大し、ユーザーは異なる文化的規範や評価基準に直面してコミュニケーション行動の調整を迫られている。しかし、その適応プロセスは十分に検討されていない。中国発の SNS 「小紅書 (RED)」は日本人ユーザーの越境参加が多く、生活情報の共有と共感的交流を重視する独自の文化を形成している。他者評価が可視化され、絵文字やハッシュタグによる情動表現が推奨される点は Hall (1959, 1976) の高文脈的コミュニケーションに通じ、同プラットフォームには暗黙の「空気」が存在すると考えられる[1] [2]。一方、日本社会では場の雰囲気を察して協調的に振る舞う「空気を読む」実践が重視されてきたが、この自文化的規範が越境型 SNS に持ち込まれた際の変容は未解明である。従来研究は日本社会内部における空気読みを論じるものが中心で、異文化環境での

再編には十分に着目してこなかった。以上より本研究は、日本人ユーザーの小紅書利用を対象に、異文化オンライン環境における空気読みの適応過程を明らかにする。

2. 先行研究と理論枠組み

Hall (1959, 1976) は文化差を情報手がかりの配分の違いとして捉え、高文脈文化においては非言語的の手がかりや場の雰囲気 (空気) が意味解釈を方向づけるとする[1] [2]。この視点は、日本社会にみられる「空気読み」を相互行為資源として理解する基盤を与えてきた。しかし従来研究は同質的な文化共同体内の対人調整に焦点を当て、異文化接触や越境コミュニケーション環境における空気読みの再編には十分な検討を行ってこなかった。

一方、SNS 研究では Goffman (1959) の相互行為論に基づき、自己呈示は他者評価を前提とする相互調整的实践と捉えられてきた[3]。Toma &

Hancock (2010) もオンラインにおける印象管理の重要性を示すが、既存研究の多くは言語的テキストに偏重し、絵文字・句読点・スタンプ・ハッシュタグ、さらにはコメントの「温度感」など SNS 特有の非言語的手がかりを十分に扱っていない [4].

越境型 SNS 研究は、異文化規範が交錯するオンライン空間においてプラットフォーム固有の相互行為様式が形成されることを指摘する (Wang, 2021) [5]. 中国発の小紅書 (RED) は共感や情動の共有を促す評価構造をもち (Wang et al., 2023), 内部に暗黙的な規範的雰囲気＝「空気」が形成されやすい [6]. しかし、既存研究は文化特徴の記述にとどまり、異文化ユーザーがこうしたプラットフォーム文化をどのように理解・調整し適応しているのかを十分に論じていない. 本研究は異文化適応理論を導入し、「空気読み」を固定的文化特性ではなく越境環境において再構成される動的な相互行為実践として捉え直す. 以上を踏まえ、次の研究課題 (RQ) を設定する.

RQ1: 小紅書における「空気」はいかなるプラットフォーム文化的手がかりによって構成されるのか.

RQ2: 日本人ユーザーは自文化的コミュニケーション規範 (空気読み) をどのように小紅書へ持ち込むのか.

RQ3: 日本人ユーザーは越境的相互行為環境において空気読みをいかに再編・適応させるのか.

3. 研究方法

本研究は、日本人ユーザーが越境型 SNS である小紅書に参加する過程における「空気を読む」実践の形成と調整のプロセスを明らかにすることを目的とし、質的研究デザインを採用した. 越境的適応を捉えるため投稿の時系列比較を行い、デジタル環境における相互行為規範の再編を操作的に把握した.

分析対象は小紅書を継続的に利用する日本人ユーザー 17 名とし、各参加者の初期投稿 5 件と直近

投稿 5 件の計 170 件を抽出した. 投稿は本文テキストに加え、絵文字、ハッシュタグ、レイアウト、反応指標などの非言語的・準言語的手がかりを含めて収集した. 投稿データおよび半構造化インタビューに対してオープンコーディングを行い、「表現形式」「評価指標の意識」「対人距離の調整」「承認獲得方略」等のカテゴリーを生成した. 初期投稿と直近投稿を比較することで実践変容を抽出し、分析結果を RQ1～RQ3 に対応づけた.

4. 分析結果

4.1 小紅書における「空気」を構成する相互行為的手がかり

本研究の分析から、小紅書における「空気」は、承認の可視性・情緒的表現の規範・共感的互酬性・関係距離の設計という四つの要素から成り立っていると考えられる. 第一に、承認の可視性である. インタビュー協力者 S8 が「Instagram と違って必ず小紅書は誰かがコメントをしてくれたりする」と述べたように、反応の得られやすさが投稿行動を支えるという認識が共有されていた. 承認は「いいね」やコメントの数として可視化され、相互行為が常に他者からの評価可能性を前提に進行している点で、Goffman (1959) の相互行為秩序の議論とも親和性を示す [3]. 第二に、情緒的表現の規範が確認された. たとえば S5 の初期投稿「はじめまして、S5 と申します🌻今日は小紅書の使い方を学びました👉...」に見られるように、丁寧な言い回しや絵文字の使用が一般的であり、Hall (1959, 1976) の指摘する高文脈的コミュニケーションに介在する文脈的手がかりがオンライン空間に再構成されていると考えられる [1] [2]. 第三に、共感的互酬性が形成されていた. 小紅書では情報発信の一方向性だけでなく、「いいね返し」「コメント返し」といった相互応答が期待され、承認の往復が関係継続に寄与している様子が観察された. 第四に、関係距離の設計が特徴として挙げられる. 相互フォロー関係でなければ DM が一往復

に制限される仕様は見知らぬ他者との過度な接近を抑えつつ安全性を確保する仕組みと考えられる。また利用者同士が「姐妹（ジエメイ）」と呼び合う慣習は、匿名性を保持しながらも緩やかな親密さを可能にする言語的装置として機能していた。これらの点から、小紅書の「空気」は承認・情緒・共感・距離の四要素によって支えられる協調的な相互行為秩序として成立しているとみられ、日本人ユーザーの「空気読み」実践の再編過程を考察する基盤となる。

4.2 日本人ユーザーによる「空気読み」の持ち込み

本節では、日本人ユーザーが小紅書への越境的な参加に際し、自文化的コミュニケーション規範をどのように持ち込んでいるのかを検討した。分析の結果、①慎重な参入、②評価回避、③対人配慮という三つの特徴的志向が確認された。

第一に、慎重な参入の志向である。多くの日本人ユーザーは小紅書の利用開始にあたり、投稿よりも先に一定期間の閲覧のみを行う傾向が見られた。インタビュー協力者 S6 は「最初は投稿せず、しばらく雰囲気を見ていた」と語っており、参加以前に既存の相互行為秩序や投稿スタイルを読み取ろうとする姿勢が確認された。この行動は、場に即時適応しつつ逸脱を避ける日本的コミュニケーション様式と通じると考えられる[7]。第二に、評価回避の志向がみられた。投稿文やコメントにおいて断定的な表現を避け、評価リスクを最小化しようとする傾向である。S2 は「批判されたくないで断定は避ける」と述べており、「～かもしれません」「ご参考までに」といった言い回しを意図的に使用していた。この回避的表現は、他者からの否定的評価を未然に防ぐためのフェイスワーク（Goffman, 1959）として理解しうる[3]。第三に、対人配慮の志向がみられた。小紅書特有の承認交換的環境に適応しつつも、過度に踏み込まない発言や応答が確認された。S9 は「知らない人との距離感は大事にしている」と述べ、コメント返信に

においても控えめなスタイルを維持していた。このような相互行為は、日本文化に特徴づけられる配慮性や衝突回避的態度が越境環境にも持ち込まれていることを示唆する。

以上の分析から、日本人ユーザーは越境 SNS においても自文化的な「空気を読む」の実践を保持しつつ適応を試みていることがうかがえる。このことは、「空気を読む」が国内文化限定の実践ではなく、越境的コミュニケーションにおいても機能する相互行為資源であることを示すものと考えられる。研究実施にあたり倫理的配慮を徹底し、参加者には研究目的・使用範囲・匿名性保護を事前に説明したうえでインフォームド・コンセントを取得した。データは匿名化し、研究目的以外には使用しない。

4.3 空気読みの再編プロセス

本節では、日本人ユーザーが小紅書という越境的相互行為環境の中で、自文化的な「空気を読む」をいかに再編し適応させているのかを検討した。空気読みは①防衛的適応段階、②観察的模倣段階、③選択的再編段階の三段階を経て変化することが明らかになった（表 1 参照）。

表 1：越境型 SNS における空気読みの適応プロセス（初期投稿と現在投稿の比較）

分析カテゴリ	初期投稿	現在投稿
空気読み行動	慎重・控えめ	文体や構成に場に応応
関係調整行動	評価を過度に気にする	交流を通じた関係形成
プラットフォーム適応	形式が未成熟	小紅書文体の習得
自己演出戦略	表現が試行段階	投稿の方向性が確立

第一の防衛的適応段階では、参加初期に慎重な投稿態度が見られた。S2 は初期投稿において「中国語が間違っていたら申し訳ありません🙏💧」と記し、批判や誤解を避ける予防的表現を用いていた。この段階の空気読みは、不確実な越境環境におけるリスク回避的な自己防衛であり、場の秩序を乱さずに参加の正当性を確保しようとする実践として理解できる。第二の観察的模倣段階では、

他者の投稿様式を参照する模倣的学習が進む。S11は「他の人の投稿を見て構成を真似した」と述べ、小紅書に特徴的な「冒頭で結論を提示→詳細→ハッシュタグ」という文章構造や、絵文字・改行の用法を取り入れていた。ここでは Goffman (1959) のいう「他者の視線を想定した自己呈示」が強く働いていると考えられる[3]。第三の選択的再編段階では、単なる模倣を超えて小紅書の規範を自文化的価値観と折り合わせる実践が見られた。S9は「コメントには極力返すが、馴れ合いにはならない距離感を保つ」と述べ、承認交換の空気を読みながらも過度な親密化を避ける調整を行っていた。また S2 は「相手が不快にならない言い方を大事にしている」と語り、日本的な配慮性を維持しながら小紅書文化に適応していた。

以上より、空気読みは越境的 SNS 参加において固定的な行動様式ではなく、防衛・模倣・再編を経る動態的プロセスとして現れることが示唆される。この過程は異文化適応モデルとも整合し、空気読みが越境環境において再解釈される相互行為資源であることを示している。

5. 考察と今後の課題

本研究は、日本人ユーザーが越境型 SNS である小紅書に参加する過程で、自文化的な「空気読み」の実践をいかに調整・再編しているかを明らかにした。分析の結果、空気読みは固定的な文化行動ではなく、越境環境において再交渉される相互行為資源であることが示唆された。小紅書では「共感の可視化」や「承認の循環性」を基盤とする情動協調型の相互行為規範が形成されており、Hall (1959, 1976) の文脈の手がかりに依拠しつつも、日本的空気読みとは異なるプラットフォーム文化が構築されていた[1] [2]。日本人ユーザーは参入初期に慎重さや評価回避志向を保持するが、他者投稿の模倣を通じて表現形式を調整していた。この過程は Kim (2001) の異文化適応論と整合し、空気読みが越境的メディア環境で適応戦略として再機能化することを示す[8]。本研究は空気読みを

デジタル環境で再編される相互行為資源として捉え直した点に意義を有するが、初歩的段階の試論にとどまり、日本人側の行為に焦点を限定しており、跨境的相互行為の双方向性を十分に捉えていないという課題を残す。

参考文献

- [1] Hall, E. T. (1959). *The Silent Language*. New York: Doubleday.
- [2] Hall, E. T. (1976). *Beyond Culture*. Garden. City, NY: Anchor Press/Doubleday.
- [3] Goffman, E. (1959). *The Presentation of Self. In Everyday Life*.
- [4] Toma, C. L., & Hancock, J. T. (2010). Looks and lies: The role of physical attractiveness in online dating self-presentation and deception. *Communication Research*, 37(3), 335–351.
- [5] Wang, W. (2021). The factors affecting the willingness of e-commerce consumer information sharing in the new media era – Take “Xiaohongshu” for example. In *Proceedings of the 2021 3rd International Conference on Economic Development and Management Science (EDMS 2021)*(pp. 135–138).
- [6] Wang, J., Zhang, X., & Jiang, M. (2023). Disclosing mental illness and connecting with similar others: Understanding RED algorithms and mental-health support. *Social Media + Society*, 9(4).
- [7] 山本七平 (1977=2018) 『「空気」の研究』文春文庫.
- [8] Kim, Y. Y. (2001). *Becoming Intercultural: An Integrative Theory of Communication and Cross-Cultural Adaptation*. Thousand Oaks, CA: SAGE Publications.